

### 新春インタビュー

広島経済同友会

森信 秀樹 筆頭代表幹事



## 15年の広島経済が好調に推移 「輝け！ひろしま」の実現へ尽力

12015年はマツタをはじめ、広島  
島の経済が元気を取り戻し、スポー  
ツ界ではその戦いぶりはともかく黒  
田博樹の復帰で大いに沸いたカー  
プサンフレッチエ広島島のJリーグ優  
勝など明るい話題が多くありました。  
15年の広島経済は、総じて元気が  
あつたように感じています。すそ野  
が広い自動車産業は、マツタの15年  
10月の世界販売実績が前年同月比で  
28カ月連続のプラスとなるなど、好  
調を持続しています。

造船の受注量や住宅着工戸数も上  
向いています。中国地方の10月の小  
売り6業態販売額は7カ月連続でプ  
ラスとなるなど、個人消費の回復を  
実感できる1年だったのではないで  
しょうか。大型店の出店など商業施  
設がさらに充実したほか、スーパー  
が魚を船1隻分丸ごと仕入れて新鮮  
な物を安く提供するなど、消費者に  
うれしい新たな取り組みが生まれて  
きたのも歓迎すべきニュースだと思  
います。また、優勝を決めたサンフ  
レッチエ広島をはじめとする各ス  
ポーツの観戦が盛んで、街が活気づ  
きましたね。16年は、緒方孝市監督  
率いるカープが2年目を迎え、25年  
ぶりに歓喜の祝杯を挙げたいと願っ  
ています。

17年4月には消費税率10%への引  
き上げが予定されており、引き続き

て16年経済も、さまざまな分野で事  
前購入や駆け込み発注が予想され、  
活気づくのではないのでしょうか。ま  
た、J-R広島駅周辺の再開発が相当  
進んできました。いっそうのにぎわ  
いを期待でき、観光客の誘致にも弾  
みがつくものと思います。

ー大学との連携協定を積極的に進め  
ています。その狙いは、

私は同友会で長年、交流・定住促  
進に携わってきました。中でも印象  
深いのは、15年9月の広島修道大と  
の包括的連携協力に関する協定の締  
結です。今後も広島で学び、働き暮  
らす若者を増やすために県内各大学  
との連携を進め、大学生の地元就職  
支援に力を入れていく方針です。

同協定を受けて同友会の会員企業  
が修道大のキャリア教育の一環とし  
て、インターンシップや会社訪問、  
見学の受け入れを推進します。12月  
16日には同大学生と同友会の広島地  
域活性化委員会のメンバー、中山間  
地域で活動する方々を交えて懇談会  
を開きました。今後の中山間地域の  
活性化を考える良いきっかけづくり  
になったと思います。また、16年2  
月には、2・3年生を対象に会員企  
業訪問バスの運行を予定しています。  
福山・尾道支部でも地元大学と連  
携し、インターンシップの受け入れ  
などを行っています。大学への出前

講座「女性の社会進出のための就職  
講座」は県内4大学で実施済みです  
が、要請があればまた出掛けて行き  
ます。人口回復に向けて、各地域・自  
治体からの相談なども増えており、  
若い世代を中心にU・Iターンする  
人がじわじわと増えていくことがう  
れしいですね。  
ーこのほか、さまざまな活動を推し  
進めていますね。

会員数が東京、中部の同友会に次  
ぐ821人に増え、業種や企業規模  
を問わず、さまざまな人的ネット  
ワークの拡大や「輝け！広島」づくりへ  
の意識の高まりを実感しています。  
会員同士や他団体などとの交流を活  
発化させる「交流部会」を新設し、  
入会から期間の浅い会員をフォロー  
アップする組織も発足しました。

県内農業の振興を支援する「ひろ  
しまアグリサポーターズ」では、会  
員の社員食堂で地元食材を使ったメ  
ニューを提供。農業従事者・参入希  
望者と会員企業とのビジネスマツチ  
ングの成立ほか、製造・流通のノウ  
ハウを取り入れた加工商品の開発や  
観光業と連携した「アグリツーリス  
ム」などで農商工連携の促進を図っ  
ています。

ひとつづくりでは、「第7回新入社員  
パワーアップ研修」の参加者が、第1  
回の30人から130人へ増加。チー  
ムでの課題解決とプレゼンテーショ  
ン、同友会の幹部や経営者の話を聞  
く車座談義、共同作業のカッター訓  
練、同年代での異業種交流などを行  
いました。企業での定着率を高め、  
積極性や主体性のある人材を多く育  
みたい。

観光振興では安芸郡坂町の海水浴  
場「ベイサイドビーチ坂」を候補地  
に、県内初の海釣り公園「フィッシ  
ングパーク」の開設を提言しました。  
瀬戸内海を観光資源として積極的に  
発信していくとともに、県民自身が  
触れて楽しむことができるのが特徴  
です。ものづくりと文化振興の視点  
から地元食材に着目し、伝統料理の  
掘り起こしやブランド化についての  
調査研究も進めています。